



## 全国学力・学習状況調査の結果と分析

令和6年度の全国学力・学習状況調査（4月18日実施）の結果等をお知らせいたします。

### （1）結果 正答率（%）

	国語	数学
全国平均	58.1%	52.5%
三重県平均	57%	53%
鈴鹿市平均	56% (▼2.1)	51% (▼1.5)

大木中の結果は、国語・数学ともに全国平均を上回りました。

### （2）3学年の経年変化（全国平均と大木中平均の差）

令和6年度結果は、令和5年度と全国平均との差異を比較すると、

国語では、9.7ポイント、数学では11.5ポイントの向上がみられました。

### （3）家庭学習（生徒質問紙より）

○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【1時間以上】の回答割合

全国	大木中	全国との差
64.3%	57.2%	▼7.1

○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【1時間以上】の回答割合

全国	大木中	全国との差
63.0%	55.3%	▼7.7

**家庭学習等にかかる時間が非常に少ない→学習時間が増えるとさらに伸びる！**

### （4）今、求められる力（生徒質問紙より肯定的回答割合<%>）太字は全国平均より上

	生徒質問紙から	全国	大木中
主体的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	80.3	80.0
対話的な学び	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができている	86.1	<b>88.6</b>
深い学び	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う	79.0	<b>82.8</b>
個別最適な学び	ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	80.2	<b>92.4</b>
協働的な学び	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	92.3	<b>95.2</b>
学びのアウトプット	授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	75.4	<b>79.0</b>

(5) 非認知能力について（質問紙より肯定的回答の割合〈%〉）太字は全国平均より上

	生徒質問紙から	全国	大木中
やり抜く力	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	78.6	<b>84.8</b>
自制心	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	72.2	<b>83.8</b>
自己肯定感	自分には、よいところがあると思う	83.3	<b>83.8</b>
社会性	人が困っているときは、進んで助けている	90.1	<b>92.4</b>

「今、求められる力」「非認知能力」など、質問紙より読み取れる数値は全国平均を上回っている。→ 生徒の「学び」や「生きる力」は高い！

(6) 総合的な成果と課題（○：成果、▲課題）

○国語は、全国平均を上回るとともに、記述問題の平均正答率も50%を超えている。記述問題の無回答率も全国を下回っている。

○数学は、県の平均を上回るとともに、すべての記述問題における無解答率が全国を下回っている。大木中として、言語能力の育成を目指して取り組んできた一つの成果であると考えられる。

○質問紙より、自ら学びを進めらているかを問う項目への肯定的回答が全国を上回る。ICTを活用し、個別最適な学びを目指してきたことの成果とといえる。

▲国語は、情報と情報を結び付けて関係性を捉える問題の正答率が低い。また文章と図を結び付けて内容を解釈する問題の正答率も50%を下回っている。

▲数学は、確率や図形の証明の正答率が低い。また、領域は様々だが、基礎・基本に課題がみられ、C層・D層の割合も全国を上回っている。

▲家庭学習を1時間以上行っている生徒の割合が低い。授業では自ら学べるが、家ではそれが難しいことから、学びに対して主体的になれていない生徒が多い。

（※C層：勉強がやや苦手な生徒、D層：勉強が苦手な生徒）

(7) 課題改善に向けた具体的な取り組み

・国語においては、授業の中で、記述問題の対策を行っていく。普段から自分の考えを言語化する活動を大切にする。その際、複数の情報を結び付けたり、自分の考えと他人の考えを比較・関連づけたりする時間を確保する。またC・D層の生徒に対しても働きかけを行っていく。

・数学においては、基礎・基本の定着を目指し、C層・D層の生徒に対して、数学の授業の中で、これだけは達成しようという個別の目標（めあて）を提示するなど、毎時間の積み重ねを大切にする。また受験に向け、日常的に課題に対する取組・指導をする。

・鈴鹿市の授業向上のための5つの視点（授業力UP 5★ ver. 2）を活用して、全ての子どもたちが主役の授業の実現をめざす。

・受験に向けて、弱みや授業と連結させた課題を出すことで、家庭での学習習慣をつけていく。また生徒に課題設定をさせるなど、生徒が主役の授業を行っていくことで、生徒の学びへの好奇心などを育み、主体性を伸ばしていく。

以上となります。